

第2回 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議 会議録

日時：平成29年11月20日（月）18:30～20:00

会場：光市役所3階大会議室1・2号

【出席者】

- ・委員:16人（代理出席2人、欠席2人）
- ・事務局:6人、株式会社荒谷建設コンサルタント:3人

【内容】

1 開会

2 会長あいさつ

皆さん、こんばんは。今日も遅い時間からのスタートだが、よろしくお願ひしたい。

この検討会議も今日が2回目である。前回、駅のことでは意見をいただいたが、検討会議のタイトルが「光駅周辺地区拠点整備」と名前がついているように、駅はもちろん、駅周辺の、拠点としての駅周辺という位置付けでいろいろな意見を賜りたい。この協議会とは別に光市は「都市再生推進協議会」を立ち上げており、そこではコンパクトなまちづくりをどう進めるかという中で拠点の位置づけを検討、議論しているところである。その中で光駅は拠点性の高い、結節性、シンボル性ともいうが、そういった機能が求められる拠点として位置づけることになるろうという議論が進められている。駅にとどまらず、周辺のこと踏まえて、議論いただければと思う。

3 議題

● 会長

議題に入る前に、前回の議事に関して事務局から2点報告がある。

● 事務局

前回の会議にて、光駅ホームの段差解消、そして、JRさんとのバリアフリー化に向けた協議の経緯について、市としての考えなり、状況なりを整理するよう宿題をいただいた。関連があるので、まとめてお答えをさせていただく。まず、バリアフリー化について申し上げますと、光駅周辺地区拠点整備の取組みを進めるにあたって、前回の会議で申したように、誰もが移動しやすく安全な空間となるようバリアフリー化を図っていかねばならないという基本的な視点がある。このあたりは、申すまでもなく、委員さん皆さん方と一致している視点ではないかと考えている。

そうした中において、市では、この整備を進めるにあたっては、駅構内はもとより駅周辺も含めて切れ目のない一体的な整備を進めることが、効率的で、かつ、市民や利用者にとっても最善の手法であると考えており、JRさんとも協議の上、現在の取組みを進めているところである。現時点、具体的な内容については、まだまだこれから、といった段階であることをご理解願ひたいと思う。

また、光駅ホームの段差解消についてのご意見もいただいたが、これから本構想の中の、拠点整備全体のあり方を検討している段階において、先行して部分的な整備を実施することは現状、難しいのではないかと考えている。

その一方で、安全・安心という面から申し上げれば、例えばJRさんにおかれては、注意喚起や安全確認はもちろん、車椅子ご利用のお客様やご高齢のお客様など介助を要する方へのお手伝いを可能な限りされておられるし、広く申し上げれば、「心のバリアフリー」という言葉もありますけれども、社会全体での声かけや助けあいの精神を醸成していく、そうしたソフト面も含めて取り組んでいくことが大切ではないかと考えている。今しばらくお時間をいただくことにはなるが、委員のご指摘の趣旨も踏まえながら、安心して利用できる都市空間づくりに努めていくので、ご理解をいただくよう、お願いしたい。

● 会長

この件について何かご意見はあるか。なければ議題に入りたい。

⇒意見なし

(1) アンケート調査の結果（速報）について

ア 市民アンケート調査

イ 光駅利用者アンケート調査

● 事務局

これからアンケート結果について説明させていただくが、アンケート結果や現状と課題を説明するにあたり、それらを踏まえて皆さま方にどのような議論をすればよいかを押さえていただきたいので、その考えをご説明させていただく。

本日、お示しするのは、アンケート結果の速報、現時点、市が把握している現状や課題であり、これらを基に次のステップで整備の基本的な方向性、さらに次のステップで光駅周辺地区に必要な機能の役割を検討していくことになる。従って、もっとこうした現状分析が必要ではないか、このあたりの分析をもっと深めていく必要があるのではないか、さらに本日お示ししたものを基にこうした方向性が考えられるのではないか、このような役割や機能が必要ではないか、といった議論があろうかと思う。このあたりを念頭に置きつつ、これからの説明をお聞きいただきたい。よろしくお願いしたい。

(事務局より資料に基づいて説明ののち、質疑応答等)

⇒意見なし

● 会長

ご質問が無いようだが、事務局から示されたのは（速報）と書いてあるので、今後議論が進む中で、必要と思われる分析を引き続き事務局にデータを分析いただき、協議会に提示していただきたい。よろしくお願いしたい。

(2) 光駅周辺地区の現状と課題について

(事務局より資料に基づいて説明[岡山市高梁市の「備中高梁駅周辺整備事業」の紹介を含む]ののち、質疑応答等)

● 委員

現状と課題について細かく分析をされているが、私は将来の予想が大事ではないかと思う。どう変わっていくのかによって駅も変わってくる。例えば瀬戸風線が開通すると南と北は大きく変わる。どのように変わるかはわからないが、その予想は必要ではないかと思う。総合病院が移転するとずいぶん変わると思う。これは勝手に想像していることだが、将来的に高校の統合があるのではないか。どこに新しくできるのかと考えたら、これも変化である。また、市役所の建替えが将来的にあるのか、現時点で公表できるのかどうかはわからないが、私が勝手に想像している。

最後に津波予想だが、光市へは将来津波が来るのか来ないのか、そうすると建設するものも変わってくるのではないかと思う。

● 会長

29 ページ、周辺の動向で、瀬戸風線の整備と光総合病院の移転が決定している。高校の統合、市役所の建て替え、津波といった将来予測を踏まえて駅周辺のことは考えなければいけないのではないかというご指摘だが、これについて事務局はいかがか。

● 事務局

ご意見ありがとうございます。前回の会議で7つの基本的な視点をご説明させていただいた。その1つ目が将来を見据えた拠点づくりであった。現在、現状と課題を見据えつつ、将来を見越して考えていかなければならない。

委員がおっしゃった県立高校の統合が県教育委員会より示されているが、具体的なものは明らかになっていない。市役所庁舎も耐震性の観点からあり方の検討が進められている。こういったことを今年と来年で構想を策定するので、来年構想策定時にはこれが明らかになっているかはわからないが、しっかり将来を見据えつつ都市の拠点づくりにふさわしい構想を作っていきたい。ご理解いただきたい。

● 会長

それは協議会の判断材料としてどうすればよいのか。道路ができる、病院ができるということで、将来が予測できるものは予測して判断を誤らないような検討が必要ではないかというご指摘だった。この協議会でそれを判断する材料が提示できるのか、できないのかが重要なところである。道路も交通需要は推測できるかもしれないし、病院も病床数、患者数、通院者数も出すことはできるのではないか。そうした判断材料を準備することはできるのか。

● 事務局

将来交通量予測においては、国道と瀬戸風線がつながったあかつきの将来交通量が推計されている。総合病院についても建設工事が始まったが、具体的な患者数、病床数などは病院局から入手可能である。どのあたりまでご用意できるか、お示しできるものはご用意させていただきたい。

● 会長

想定の範囲内にあるかもしれないが、プロジェクトが進み、どのような影響が予測されるかを踏まえ、駅周辺の計画を練ることが一般的な手法なので、精度の高いものを提出していただきながら、計画を判断できるような進め方をお願いしたい。

● 委員

先ほど高梁市の事例は一つの参考だと思う。駅周辺には駐車場は当然必要である。複合施設という話もあったが、実際に複合施設は光駅においてどうなんだ、ということを考えていかなければならない。徳山駅の複合施設もどうにかやれている状況であると聞いている。徳山駅がそうであるのなら、光駅はなおさら考えて商業施設や公共施設はどの程度のもが必要なのかを、計画の中で考えていくのがよいのではないかと。

● 事務局

ご意見ありがとうございます。本日の資料で現状と課題の現時点で整理したものをお示しさせていただきました。今後の構想の流れとしてこの検討会議の皆さまにも段階的にご意見をいただくことになる。

先ほどの資料2の1ページの下側に構想の概念図を示している。前回もお示ししたが、現状や課題を踏まえて、今後の基本的な方向性をお示していくことになる。その段階でアンケート結果にもあった、商業、行政機能のご意見もいただいたので、それも踏まえて考えていきたい。

● 会長

2ページ以降、上位・関連計画が整理されているが、光駅周辺のことは交流拠点とか結節点とか「拠点」と記載されている。この委員会ではJR光駅の周辺を拠点と記載されている「拠点」とは何かということを議論していかなければならない。アンケートの中では「商業」や「行政施設」などと書かれているが、光市が求めている拠点は何かということ資料やアンケート結果を踏まえ、何を求めて拠点としたいのかを議論する必要がある。「拠点」の中身が何かを協議していく必要がある。それに関連する資料などを事務局で十分に精査して準備いただくことが必要と思う。大都市のような拠点なのか、人口5万人規模の拠点とは何なのか、JR光駅周辺が拠点というのは何なのかを皆さんの意見を聞いて、そこをあぶりだしていくようなプログラムを持って行っていかなければならない。委員のご意見はそれに関連するのではないかと考えたので、私から意見を言わせてもらった。

● 委員

先ほど備中高梁駅の事例を拝見したが、「光駅をこういうふうにしたい」というのがプランなのか。備中高梁駅をインターネットで調べてみたが、市役所も駅から徒歩5分など光駅とは環境が違う気がする。それをモデルとされても納得しにくい。それと前回も申し上げたが、駅の橋上化である。現在徳山駅を通勤で利用しているが、徳山駅はほぼ出来上がって、駅前図書館と一緒になった状態を日々見ているが、箱はとても立派である。ただ、これが駅と合体する意味があるのかと思っている。駅は駅、図書館は図書館、これがくっついて意味は何があるのか。例えば図書館の中から駅に行けるのであれば使い方もあるが、今はくっついていただけである。こういう使い方をするのであれば、単によい箱をつくっただけという状況が見受けられるので、できれば光駅から電車に乗り、徳山駅に行き、どのようになるのかを、フィールドワークでもよいし、もしくは各個人でご覧になられてもよいと思うが、見ていただけると将来性やどのようにすればよいのかがわかるのではないと思う。

付け加えると、徳山駅は橋上駅になり「心のバリアフリー」がなくなった。以前、電車が遅れたことがあったが、駅員さんの案内がないことがあった。そういう駅であってほしくないというのが個人的な意見である。

● **会長**

JRに対する意見は（この場で議論することでは無いので）さておき、備中高梁駅を事例として出した根拠について事務局から説明をいただきたい。

● **事務局**

備中高梁駅を紹介した理由だが、決してこの駅のようにしたいという思いでお示したものではない。先進事例を紹介したのは、駅周辺の拠点整備ということで、まずは皆さまに少しイメージをつかんでもらうという意味でご紹介した。先進事例ということではあるが、今回高梁市にお伺いをしたということもあり、ご紹介をさせていただいた。

● **事務局**

補足だが、単なる駅の建て替えが私たちのお題ではなく、駅を中心とした、先ほど会長からも「拠点とは何か」という話をいただいたが、高梁をご覧いただいたように、駅と鉄道を跨ぐ通路を新たにつくり、その両側に駅前広場を設けて駐車場あるいは乗降スペースをつくる。それに併せて図書館、人が集まるスペース、遊具なども設置されているような空間も設けてあったが、そうしたまちづくりは参考になるのではないかと思い、職員を派遣し、見学をさせていただいた。皆さまに知っていただけると、これからのまちづくりに役に立つことがあるのではないかということでご紹介をさせていただいた。

● **会長**

高梁市が駅をどのように考えたかということで、光市の場合はこれと違った形になると思うが、高梁市はこれを駅周辺の整備として完成させたという一つの事例で、ここで見るべきところと思うのは、バスと駅がくっついていることは非常に大きな利便性の向上であると思う。先ほども結節性ということが上位・関連計画に出てきたが、結節点とはバス、タクシー、マイカーなどで来られた方が電車にすぐ乗り換えてどこかに行けるとか、様々な交通が1か所でさばけているということ。それがここで事例として出てきていると思う。交通の結節性という意味では実現できていると思う。これに図書館やカフェが出てくるのは高梁バージョンということである。こういうことを踏まえて、光としての拠点は何かということをご議論して、光としてのオリジナリティを出していきたいと思う。

● **委員**

先ほどの委員のご指摘で、31ページの交通量図は都市計画基礎調査をそのまま引用しており、都市計画基礎調査でルール化されている交通量を線で表しているが、幹線道路しか挙げていないので、わかりにくい。瀬戸風線の整備前後でどのように変わるのかがすでに検討されているはずなので、こういった資料にもう少し補助幹線街路、他の道路網まで入った状態でお示しの方がよいのではないかと思います。

今日も来るときに思ったが、朝夕国道188号線がとても混雑する。その混雑する道路が駅前通りを横切っている。穏やかで静かな場所ではないところがあるということも整理の上では明確にしてほしい。188号線に関して言えば、光市の島田川を渡るまでの区間は完全に改良済の区間なので、非常によく整備されている道路が交通量を持って流れている。それが駅周辺には数字としては挙がってきていないという感想を持っている。それから、

駅と言うことに着目すれば、どのような人が駅を利用しているか。例えば、私どもの学校には600人の学生がいるが、光市出身者が1割強で、70人くらい通ってくるが、間違いなく自転車で光駅まで来て通ってくる。例外もあり、1人室積から自転車で通う学生もいるが、そういう特殊な例は除いて、基本的には域外の高校に通う高校生たちはここを自転車で通って駅から電車に乗る。逆に域外から光市内に来る生徒もそういう使い方をしていると思うので、そういう部分も透けて見えるような整理があってもよいのではないか。その数が100ではない。100、200、300とボリュームを持っているので、そういうものも含めて駅が使いやすくなる。自転車なのか、バスなのかは別として、今はバスがないからバスに乗らないだけなので、そういうことも将来的に整理するときに見えてくることができなにかということを感じて感想として持った。

● **事務局**

交通量について、自転車についてもご指摘をいただいた。どういった資料が現状ということで用意できるか、不足している点もあろうかというご指摘だと受けとめたので、少し補強できるか検討したい。

● **会長**

事務局は最終的に周辺地区拠点整備基本構想をまとめなければいけない。どこまでを基本構想としてまとめるのか、言いたい放題を基本構想としてまとめるわけにはいかないので、バラ色のような基本構想を書いてよいのか、ある程度の制約条件をつけることはどこで判断するのか。どういったレベルの基本構想を書けばよいのか。高梁市のように「公共施設を入れてバスセンターを入れる」といったことを基本構想検討会議で入れてよいのか。

● **事務局**

行政が策定する構想なので、到底実現が不可能、あるいは困難といったもの、書くだけ書くといったような作文計画ではいけないものと考えている。どこがどうなっていくのかということは、来年の取りまとめの段階になってくるが、順次お示ししていく中でご意見をいただければと思う。

● **会長**

協議会で要望としてこれくらいの事はしてほしいとか、良識ある判断でこれくらいのことは拠点としてしなければならないのではないかとか、これくらいが周辺の影響が少ないのではないかとしたことによって皆さんに判断していただくということか。それか行政はこれくらいのことまではできるので、その是非を考えてほしい、など私自身落としどころが見えていないところもある。どうすればよいか。

皆さんもどこまで言ってよいのか判断が難しいところもあると思うので、事務局で最終的にこれくらいまでの内容を皆さんで協議してほしいというのを次回示していただき、それに向けて我々はそれに対して判断材料を提示してほしいといったやり方をしないと、どのレベルで構想をまとめればよいのかということが私もよくわかっていない。例えば制約条件があればはっきり言うてもらおうとかしないと、とりとめのない議論になってしまう。

キャッチフレーズくらいのもので、ここに挙がっている“ア”～“キ”までのキャッチフレーズが最後の課題の部分に出てくるが、それを解消する位とか、文章で書く位のイメージで基本構想をまとめればよいとか。それとも、駅と駅周辺の市有地を活用して、これくらいのことは可能であるということまで議論してよいのか、そのあたりを整理していか

なければいけない。文章で示すのは簡単だが、絵で描くとなるとかなり具体的なところが出てくるので、事務局はどのようなイメージなのか。

● **事務局**

先ほど申し上げた資料2の1ページの下側にもあるが、必要な機能や役割は作文になると思う。その下のゾーニングは地図の上にエリアを図示するようなことになると思うが、そういった図になることまで、構想図として想定している。

● **会長**

これをどのくらいの深さまで議論するのか、次回そのために材料を出していただきたい。基本構想図はどれくらいのイメージなのか。ボリュームが必要なのか。事業区域も示されていないので、どこまでのことを言ってよいのかということまで含め整理して議論していないと、どこまで話してよいのかなか判断がつかない。よろしくお願いいたします。

委員の皆さんも意見が言いにくいとかどこまで話してよいのかわからないなどないか。

● **委員**

会長が言われた通りで、範囲がどこまでなのか。現実的に駅があって、地形的にわかっており、その中でどうするのか。私が思うのに駅の西側についてはどうすることもできないだろうと思う。東側の188号線あたりのどこまでの範囲を駅の周辺とするのか。もう1つは駅の北側については開発しようと思っても瀬戸風線も通るので、現実には難しい。駅前も虹ヶ浜海岸の東のどこまでを範囲にするのか、具体的にはそこではないかと思う。それと瀬戸風線が去年の県の説明によると、整備にあと10年かかる。こういうことで、一旦海の方へ出て走るという構想になっているが、そうすると魅力的なものを駅周辺につくるということが一番の焦点になるのではないか。

● **会長**

事務局でそのあたりは整理していただき、皆さんが議論しやすいような枠組みを準備していただき、テーマを絞っていかなければ発言しにくいかもしれない。準備していただきたい。行政ではなかなか判断がつきにくいかもしれないが、仮説を立ててもよいし、いろんな側面を切って資料を準備していただき、意見を募る方が活発な意見が出てくるのではないか。そこの工夫をしていただきたいので、よろしくお願いいたします。

● **事務局**

貴重なアドバイスをいただきありがとうございます。次回、皆さんによりわかりやすい現実的な議論をしていただきたいので、しっかり勉強をして工夫してみたい。よろしくお願いいたします。

● **会長**

次回の議論の進め方については、私も事務局と話し合っ、意見が出やすいような枠組みを提示しながら進めていきたいので、よろしくお願いいたします。

4 **その他**

事務局より連絡事項等

- ・ 次回の会議は概ね2～3月の開催を予定。日程は追ってご連絡させていただく。
- ・ 時間は本日のように夜間の開催を軸に考えたい

- **委員**

検討会議は大体4回くらいの開催と聞いていたが、次回が2月か3月開催になると3回で終了するのか。

- **事務局**

本年度は4回を想定していたが、スケジュールの都合で3回になった。来年度に引き続き開催を考えている。

- **会長**

スケジュールも次回、どういう流れでどれくらいを目途にまとめるのか、確認の意味も含め提示していただきたい。

5 閉会

- **事務局**

本日ご発言できなかったご意見・ご提言等あれば随時事務局に連絡いただきたい。